



糸島の幸を通じて、
人の輪が広がっている。
そんな場をたいせつに
守っていききたいですね。

中村 明穂さん

中には親だけが残ることになります。地域の持続は、子や孫が親と同じ学校に通うことで可能となるのです。だから、若者になるべく糸島に残ってくれるような環境、つまり、泊君たちのような農家を継ぐ意欲のある若者が、結婚し子どもを育て、自信をもって子どもにも農業を継がせられる、そんな環境を市役所としてしっかりとつくり、応援していかなければならぬと思っています。

みなさんも、それぞれの道で頑張ってください！

西崎 美しい海岸を守るために、定期的に清掃活動か。家族と日ごろ、食事をしながら農業について語り合っているのですが、自分自身も安心安全のために、減農薬をどう進めていくかを研究し挑戦したいと思っています。

神代 私も自然は守るべきだと思います。特に山と公園が一体となった笹山公園のような場所は珍しくて大好きな場所なんです。将来、糸島に帰ってきた時、こうした環境で子どもを遊ばせたいので、たいせつにしたいです。



可也山(糸島富士)をバックに、市役所屋上にて。いとしまPR隊「Lovit's」(ラビッツ)の名前の由来となったLove itoshimaのLとVの決めポーズで。左奥に加布里湾が見える

中村 地元の牡蠣小屋の盛況ぶりを見てみると、とても活気に溢れていて嬉しくなります。糸島の幸を通じて、提供者とお客さんとのコンタクトの場となり、そのつながりが県内外にどんどん広がっています。こうした機会もたいせつにしたいです。

波多江 前原市時代の「市民まつり」ではパレードがありました。今はなくなり、とても楽しかった。復活してほしいです。若い人が少なく、なつて元気がなくなるのはとても寂しいです。

市長 夏祭りの山笠も、九大生や留学生が担ぎ手となって、成り立っているから成り立っているんですよ。やはり伝統を守るのにも若手の力が必要なんですよ。

福地 自然に加え、「糸島クラブフェス」や「市民まつり」といったイベントもすごく魅力的。世代を問わず、「あそこに行けばみんなが集まる」というような、人と人の繋がりが見えるまちであってほしいです。今はまだ地元のイベントなどになかなか参加できていない新興住宅地の人々の中にも、まちづくりや地域活性化に熱心な人が必ずいます。そんな人たちに働きかけることで、一緒に盛り上がることもできると思います。

お祭りが大好きです。
これからも若い力で
盛り上げて
ほしいです。

波多江 理佳さん



佐藤 地元の大学が身近に感じられれば、九州大に足を運ぶ機会が増えるかもしれませんね。

座談会を終えて
市長からのメッセージ。

市長 今日、座談会で、みなさんが地域のことに、実に頼もしく、これなら未来の糸島を任せられると確信しました。少子高齢社会である現在、若者が出ていくと、ま